

Round Table Discussion D

" Involving the public through citizen science to learn about the distributions, timing and natural histories of birds "

「参加型調査による鳥類の分布・生活史等の研究」

世話人：植田睦之・黒沢令子・神山和夫（バードリサーチ）

生物多様性が注目され、その減少が問題視されるなか、広域の情報をもとにした鳥類の分布や生態の研究の重要性が高まっています。そうした研究をするには、広域の鳥のデータが必要になりますが、それを研究者自身で収集するのは非常に困難です。

そこで、欧米でも、日本でも各地のアマチュア研究者やバードウォッチャー、そして市民の参加によるデータ収集が行われています。

このラウンドテーブルには、2年後に立教大学で行なわれる国際鳥学会のScientific Program Committee のメンバーとして来日している、Cornell大学のDavid Winklerさんが参加します。Winklerさんは、市民参加型の調査のデータを使って鳥の分布や生活史の研究を行なっています。

Winklerさんを含め、ラウンドテーブルの参加者何人かから、自身がかかわっている参加型の調査とその成果について話してもらいます。そしてそれをもとに参加型調査の可能性や問題点について、議論したいと思います。

話題提供（予定）

参加型調査で分布や個体数の変動をモニタリングする 神山和夫（バードリサーチ）

参加型調査で生物季節や繁殖成績をしらべる 植田睦之（バードリサーチ）

長距離分散する種の繁殖分布を参加型データベースで見守る 藤田剛（東京大学）

アメリカで行なわれている参加型調査 David Winkler（Cornell大学）

ほか